旅の見どころ **1**

農家民宿それぞれ自慢の野菜料理

南相馬市では新鮮な野菜を味わえる「農家民宿」があります。東日本大震災前は、１３軒の農家民宿がありましたが、現在は７軒が営業を続けています。１泊２食付きで一人６，５００円。農家民宿はそれぞれ、作っている野菜も違えば、代々受け継ぐ家庭の味も、自家製のみそも違います。自宅でとれた自慢の野菜で作る農家ならではの家庭の味を食べ比べてみるのも、この町の魅力を知る近道かもしれません。

福島県南相馬市鹿島地区。
米作りが盛んな農村地帯だったこの街は、農業体験と新鮮な農作物を楽しめる「農家民宿」が人気を集めていました。しかし、３年半前の原発事故で一変、今も街は、荒れ果てたままです。そこに響きはじめた女性たちの笑い声。農家民宿のおかみたちが、かつての田んぼで「藍」を育て、藍染めを始めました。仮設住宅に暮らす人や、移住者、農家。それぞれの思いを胸に、支え合い暮らす女性たちを訪ねます。

旅の見どころ **2**

藍がもたらす新たな町の彩り

原発事故後、田畑に出る機会を失った農家の女性たちは、雑草だけが伸び、荒れていく田畑をただ見ることしかできずにいました。去年、１人の農家の女性が藍染めの原料となる藍を自宅の田んぼで栽培を始めると大流行。「藍染めワーム」が始まりました。藍染めに参加する農家の女性たちは、少しずつ再開しだした農作業の際に、みずからが作った藍染めの作品を身にコリ、汗を拭きます。さまざまな模様には、南相馬の景色や思い出など、１人１人の思いがこめられています。

旅の見どころ **3**

町に響く農家の女性たちの笑い声

この町のいちばんの魅力はなんと言っても「人」です。農家民宿の女性たちだけでなく、農家の町の人々は、それぞれ震災で失った日常を抱えながらも、支え合いながら暮らしています。「草を刈ることだけでも楽しい」「野菜においしくなれっていっも話している」「藍染めのときはほかのことを何にも考えない」。女性たちが集まる場所には、いつも笑い声が響きます。

memo

アクセス方法
＜電車＞
常磐線「鹿島駅」より車で１０分。

＜車＞
東京から：常磐道「常磐富岡ＩＣ」ですぐ、
国道６号線を北へおよそ１時間。

仙台方面から：常磐道「山元ＩＣ」ですぐ、
国道６号線を南へ３０分。

小さな旅

～こころのふるさとをみつめて～

コブック　vol. １５８

心つなぐ彩り
～福島県　南相馬市～

２０１４年９月２８日（日）放送

小さな旅　ホームページ
http://nhk.jp/kotabi